

# Relief

リリーフ

2015  
October  
vol.21

特集  
救急フェア



公益財団法人

JR西日本あんしん社会財団

JR-West Relief Foundation

## PICK UP ①

救急フェアでは、開催する駅の地域を管轄している消防の方々から、様々なご協力をいただいています。その中で、第1回目の救急フェア（平成22年度に開催）からご協力いただいている尼崎市東消防署と、平成26年度からご協力いただいている明石消防本部の方に、救急フェアにかける思いと初期救命の重要性について伺いました。



## 尼崎市東消防署 中峰 敏宏さん

平成22年10月から尼崎での救急フェアと一緒にさせていただいています尼崎市東消防署の中峰です。あの未曾有の事故から10年が経ち、私たち消防署の中でも若い職員はあの現場を知らないことから、毎年研修を行っています。

救急フェアでJR社員の方々と一緒に応急手当の重要性を普及啓発している中で、JR社員と顔の見える関係が築けていることが今後の救急現場での大きな糧となるものと思っております。一人でも多くの救える「命」を救うため、一緒に頑張っていきましょう。



## 明石消防本部 高田 陽介さん

昨年から、救急フェアに協力しています明石消防本部の高田です。心停止者の救命のためには、「迅速な通報」、「迅速な心肺蘇生」、「迅速な除細動」、「二次救命処置」の“救命の連鎖”といわれる4つの各輪がうまく組み合わさって連続して機能することが大切といわれています。

突然心臓や呼吸が止まってしまった人を救うためには、そばに居合わせた人が1分1秒でも早く3つ目の輪の「迅速な除細動」までを行うことが大切ですので、そのことが広く一般市民の方に救急フェアを通じて普及していけばと考えています。

一人でも多くの方が救命処置を行えるようになることを願っています。

## PICK UP ②

救急フェアで体験いただいた方には、アンケートのご協力をお願いしています。

「心肺蘇生法やAEDの使い方を知っていますか?」という設問では、

知っている	43.1%	知らない	56.9%
-------	-------	------	-------

という結果が出ており、まだまだ認知度は低いことがわかります。その一方で、体験していただいた後、救命処置が必要な場面に遭遇した場合に処置をすることができるかどうかを尋ねてみると、**95.4%**の方々から前向きな回答をいただいています。

できる	27.9%	協力できる	67.5%
自信がない	4.6%	できない	0%

そこで、どのようなこと、どの程度のことであれば“できる”と感じていただけているのか、様々なご意見をまとめてご紹介します。

- ・とてもよい経験になりました。まだ自信はありませんが、実際そんな場面になった時は一歩踏み出そうと思います。(60代 女性)
- ・近くで倒れている人がいたらびっくりするかもしれないけど、今日知ったことを生かして一人でも助けられるようにしたいです。(10代 女性)
- ・心肺停止状態の場面はそうめったにあることではないですが、その場面に居合わせた際に勇気を持って声かけや通報ができる人が一人でも増えたらと思います。(30代 男性)
- ・普段からAEDの設置場所を知っておく必要があると思いました。今後、もし目の前で人が倒れたとしても、冷静に対処できそうです。(30代 女性)

## PICK UP ③

実際に救命処置が必要と判断された場面では、どのような処置が行われているのでしょうか。AEDが使用された実例を、2件ご紹介します。

**実例①** 早朝、駅のホームで突然倒れた方がいたとのことで騒ぎになっていました。近くにいた方々が既に心肺蘇生をされているところだったので、AEDが必要なのではないかととっさに思い、すぐに取りに行きました。

後日、救助された方が退院し、無事に社会復帰されたということをお聞きして、とてもうれしかったです。日頃の訓練の大切さを感じています。(20代女性)

**実例②** 急病人が発生したという騒ぎを聞いて現場に向かいました。倒れていた方は意識がなく、呼吸もしていない状態でした。初めての事態に慌てはしましたが、手順どおりに胸骨圧迫をすることができ、到着した救急隊の方々に無事に引き継ぐことができました。

応急手当普及員は非常に意味のある資格だと感じています。今後、周囲にも広めていきたいと思っています。(30代男性)

「救急フェア」や「救9の日 駅で体験AED」では、これまで多くの方々にも心肺蘇生法やAEDの使い方を体験していただけてきました。

もし実際に救命処置が必要な状況に遭遇したとき、これらの救急イベントでの体験が“いのち”を救う一助になるよう、これからも、救命処置の重要性を多くの方に広めていきたいと考えています。

## 平成27年度救急イベントスケジュール(9月~3月)

## ■救急フェア

開催日	開催箇所
9月 5日(土)	宝塚駅
9月 12日(土)	奈良駅
9月 19日(土)	吹田駅
10月 3日(土)	草津駅
10月 17日(土)	岡山駅
11月 3日(火・祝)	京都駅※

## ■救9の日 駅で体験AED

※エキデモAEDから改称

開催日	開催箇所
10月 9日(金)	天王寺駅
11月 9日(月)	芦屋駅
12月 9日(水)	南草津駅
1月 9日(土)	京橋駅
2月 9日(火)	加古川駅
3月 9日(水)	京都駅

※救急フェスタin京都「第3回いのちのリレー大会」開催

平成 27 年 8 月 27 日 (木) に、神戸新聞松方ホールにて安全セミナーを開催しました。



## Profile

こん どう せい じ  
近藤 誠司 氏

関西大学社会安全学部 准教授

20 年間、NHK のディレクターとして災害報道に従事、現在、関西大学社会安全学部准教授。人と防災未来センター・リサーチフェロー。京都大学防災研究所非常勤講師。京都大学大学院情報学研究所博士後期課程指導認定退学。博士(情報学)。

NHK スペシャル『メガクエイク 巨大地震』で科学技術映像祭・内閣総理大臣賞を受賞。

主な著書に『ワードマップ 防災・減災の人間科学 いのちを支える 現場に寄り添う』(新曜社、2011) など。

## 命を守る災害情報 ～巨大災害に立ち向かうために～

### 防災を「我が事」にしてリアリティを醸成

防災の分野においては、「我が事にする」ことが肝であると言われています。大学の私の講義では、「リアリティ」という言葉を使って学ぶようにしています。その情報や知識にリアリティがあるのか。災害時にみんなが動けるようなリアリティを醸成していくことが求められています。

### 東日本大震災の経験を振り返って

岩手県の野田村保育所では、約 100 名の職員と子供たち全員が助かりました。保育所では月 1 回の避難訓練が速足散歩という形で行われていました。先生方が我が事のようにいつか来るかもしれない津波のことを考えて訓練し、リアルに感じていたことで、全員が助かったのだと思います。

また、宮城県南三陸町の戸倉小学校でも校舎の中にいた方は全員避難することができました。避難マニュアルは未完成でしたが、手回し式の充電器つきラジオを購入するなど、災害時の避難の準備をしていました。そして、あの日、高台の神社まで逃げ、手回し式の充電器つきラジオで津波の情報を確認し、境内で一夜を過ごして助かることができました。

野田村保育所も戸倉小学校も助かったのは偶然ではなく、やるべきことを一つ一つ潰していき、リアリティを共有したことが助かることにつながったのだと思います。

### 時間雨量 80 ミリの雨と聞いたら

時間雨量 80 ミリの雨とは、人命をおびやかすほどの猛烈な雨です。早期避難が求められます。しかし、住民だけの判断では危うい場合がありますので、気象庁など行政の情報を使うとよいでしょう。例えば高解像度降水ナウキャストなどのインターネット上の情報は若者がとり、高齢者は今まで生きてきた知識と経験を生かす。若者と高齢者がそれぞれのリアリティを重ね合わせることで大きな力になるのではないかと思います。

### 地域防災のためにできること

神戸市長田区の真陽地区では、南海トラフ巨大地震の場合、指定避難所になっている真陽小学校も浸水する想定になっています。そこで、効率的な救助活動をするために、スーパーマーケットのカートを使って人を搬送したり、ラジオなどで入手した情報をトランジスタメガホンで伝える実験が行われています。また、小学校では校内放送を活用した防災学習を行っており、児童がその内容を家族に伝えることで、地域全体が学びあえるようにしています。

また、防災 CREDO (クレド) という取り組みでは、「自分は防災に対してこんなことができるよ」「いざというときにこんなふう頑張るよ」など、「約束」の言葉を集めています。今、防災の分野では息の詰まる報道や情報が多いかもしれませんが、みんなが前向きに防災活動に取り組むことを考えています。

「助」という字は「力を重ね合う」という意味です。いざというときに助け合うことが何よりの防災力だと思います。防災に向け、リアリティを感じて共に情報をつくり、しっかり活用するということをぜひ考えていただけたら幸いです。



## Profile

いな がき ふみ ひこ  
稲垣 文彦 氏

公益社団法人中越防災安全推進機構  
震災アーカイブス・メモリアルセンター長

2005 年 5 月、地域復興のための中越復興市民会議を創設、事務局長に就任。その後、公益社団法人中越防災安全推進機構復興デザインセンター長として地域復興支援員の人材育成等に従事 (2008 ~ 2014)。

また集落支援員や地域おこし協力隊等のネットワーク「地域サポート人ネットワーク全国協議会」の設立に尽力。中山間地域の過疎化、高齢化対策としての集落支援員・地域おこし協力隊、東日本大震災からの復興対策としての復興支援員の人材育成等を担当。

2015 年 4 月より、震災アーカイブス・メモリアルセンター長に就任 (現職)、また柏崎市協働のまちづくり専門官に就任 (兼務)。主な著書に『震災復興が語る農山村再生 地域づくりの本質』(コモンズ、2014) など。

## 住民自らでつくる安心社会

### 災害で失う損失と喪失

災害は社会のひずみを顕在化させます。ひずみとは、もともとあった地域社会の課題であり、新潟県中越地震では過疎化・高齢化の課題が顕在化しました。人口減少社会の扉をあけたと言われるこの震災で、その中で我々はどう生きていくかという課題を突きつけられたのです。

災害で失うものには損失と喪失の 2 つがあります。損失とは、建物や道路など、お金をかければ元に戻るもので、これは復興の必要条件です。喪失とは、人命や地域のにぎわいなど、お金をかけても元に戻らないものですが、実はこの喪失感を埋めているかどうかによって復興感が変わってきます。それは、自分たちでその喪失感を何とかしようという当事者意識があるかどうかということです。

### 当事者意識をつくり出すには

新潟県中越地震後、山古志村では、当初は学生ボランティアが被災した地域の人たちにお茶出しをしていました。その後、今度は逆に、地域の人たちがボランティアに笹だんごづくりを教える取り組みを行いました。このことが劇的に被災者の意識を変えました。ボランティアの方々から「おいしい。ありがとう」と言われ、感謝されて、役割が出てくる。人に認められて、もっと何かやってみようという気持ち生まれる。それが当事者意識に変わっていったのです。つまり、寄り添い型のサポートで一人一人に関心を持つ、存在を認めてあげることが、その人たちの当事者意識を出す原点ではないかと思います。

私は、防災、復興、地域づくりは愛だと思っています。愛とは何か。「愛の反対は無関心」というマザー・テレサの言葉がありますが、愛とは「関心を持つこと」だと思います。

### 住民自らでつくる安心社会

「住民自らでつくる安心社会」とはどのようなものでしょうか。慶應大学の吉川肇子先生は、安心には、無知型安心、無知型不安、能動型不安、能動型安心の 4 種類あるとおっしゃっています。自ら知識を求めないまま何となく不安であるという無知型不安から、自ら知識を得ようとする能動型不安へ、さらには自ら動いて能動型安心を求める状態を継続的にしていく取り組みが「住民自らでつくる安心社会」のアプローチだと感じています。

今、山古志村では交流人口も増え、経済も回り始めています。それは、「この地域はすごい」「あのおばあちゃんに会いたい」と思った方がリピーターになってきているからです。これが、過疎が進んでも、外の人の力をかりてできる社会の形ではないでしょうか。

### 共助社会と当事者意識

実は震災後、山古志村では自殺がなくなったそうです。震災前は、自分で身の回りができなくなると自殺する方がいらしたそうです。厳しい自助のような社会だったのかもしれない。誰かに「困った」「大変だ」と言いつらかったのかもしれない。しかし、震災のときに近所同士で助け合い、ボランティアにも助けてもらった。「自分一人で頑張らなくてもいいのかな」、そんな緩やかな共助社会ができたのだと思います。

大切なことは、自分たちで自分たちの地域を何とかしようという当事者意識を持つことです。何かをすることによって自分の人生も豊かになっていくのだと私は感じています。

# 公募助成団体の活動紹介

## 特定非営利活動法人 遺族支え愛ネット 『遺族の悲嘆を分かち合い・ささえあい・ 助け合って前向きに!!』

遺族の方々の分かち合いの場「ささえあいだんわ室」を7/4(土)に開催。僧侶による法話、「分かち合いと語り合い」の2部構成で実施されました。語り合いでの会話は尽きず、とても前向きなエネルギーを感じられる場となっていました。



## 特定非営利活動法人 日本病院ボランティア協会 『災害時の病院ボランティア活動の推進』

災害時における病院ボランティアの対策、役割などについて学ぶ研修会を7/10(金)に松江で開催。中国地方を中心に68名が参加し、講演の聴講や活動発表、各病院での現状や課題についての意見交換など、活気のある研修会となりました。



## 稲野自治会 『災害時要援護者支援活動／稲野町と隣接地域社会と地域教育機関のコラボレーション』

9/12(土)に、稲野町と隣接する地域、大学と合同での防災フェアを開催。防災に関わる様々なプログラムで賑わう中、メインの防災講演会には100名以上の聴講者が集まるなど、地域同士の繋がりがや防災意識の高さが伺えました。



## 特定非営利活動法人 和歌山県木質資源開発機構 『保育(幼稚)園児の時代から防災教育を!』

地域の防災力向上を目的とし、保育園を舞台にした防災啓発活動を9/24(木)に実施。参観日に合わせていたことから園児の保護者も多く集い、防災ソングやダンスで体を動かし、ペール缶コンロを使った備蓄食料作りに取り組んでいました。



## 朗読ういっしゅ 『「命」をテーマの講演会と朗読劇』

7/18(土)に朗読劇「さとうきび畑の唄」を上演。プロのアナウンサーや役者、演奏家の方々によって、命の尊さ、平和の大切さを切々と訴えるシーンが数多く演じられ、客席では、目頭をおさえながら聴き入っている様子も見られました。



## 特定非営利活動法人 オーシャンゲート ジャパン 『心と体のケアとしての海洋セラピー体験』

7/24(金)に、心身のケアを目的とした海洋セラピーを和歌山県の実地。プールで水に慣れた後に海中へ入り、体を動かしたり、色鮮やかな魚の群れを眺めたりするなど、自然な開放感と笑顔のあふれる穏やかな時間を過ごしていました。



# 今後のイベント情報

## 特定非営利活動法人 奈良国際協力サポーター 奈良の災害と その対応について学ぼう!

日時: 平成 27 年 11 月 3 日 (火) 14:00 ~ 16:30

場所: ならまちセンター 3階会議室

概要: 奈良の災害とその対応について、講話やワークショップを行う在日外国人対象の学習会を開催します。(メールにより申込み。先着 20 名。参加無料)

問合せ: 特定非営利活動法人 奈良国際協力サポーター

MAIL: jkobi@m5.kcn.ne.jp

FAX: 0742-87-1101

## 東日本大震災復興支援 京都生協職員ボランティア 復興支援餅つき大会

日時: 平成 27 年 11 月 28 日 (土)

場所: 宮城県漁協志津川支所 (午前 10 時頃から)・  
登米市南方仮設住宅 (午後 1 時頃から)

概要: 宮城県南三陸町への炊き出し復興支援活動として、被災された方々へつきたての餅をふるまうイベントを開催します。(要問合せ)

問合せ: 東日本大震災復興支援 京都生協職員ボランティア

TEL: 075-693-6262

MAIL: fukunaga-shinsuke@kyoto.co-op.jp

HP: http://www.kyoto.coop/kumikatsu/shinsai\_shien.html

## 心援隊 『夏休み 疎開・保養プロジェクト』

東日本大震災の被災地や疎開先から募った家族を対象に、様々な体験や交流を行う7日間のツアーを7/21から実施。最終日となる7/26(日)は、大阪府内の農園でピザ作りや野菜の収穫を体験し、自然との触れ合いを存分に楽しんでいました。



## 奈良精神科作業療法勉強会 『被災地の心身障害児を対象とした宿泊体験』

東日本大震災の被災地に住む心身障害児を招いた1泊2日の旅行体験を8/1~2に実施。作業療法士のスタッフとペアになって、行程をシールでチェックしながら観光地を巡り、初めて見聞きすることを全身で楽しんでいる様子が見られました。



## 一般社団法人 関西浜通り交流会 浜通り交流会

日時: 平成 27 年 11 月 29 日 (日)

場所: 永観堂、南禅寺等

概要: 東日本大震災の原発被害により、関西地区へ避難している双葉地域の方々を対象とした秋の交流会を開催します。(電話かメールにより申込み。先着 30 名。参加費 3,000 円)

問合せ: 一般社団法人 関西浜通り交流会

TEL: 075-708-7820

MAIL: kansaihamadoori@gmail.com

HP: http://kansaihamadoori.com

## 特定非営利活動法人 リスクデザイン研究所 水害FORUM (全体フォーラム)

日時: 平成 27 年 12 月 5 日 (土) 14:00~17:00

場所: 関西学院大学 大阪梅田キャンパス 1004 号室

概要: 過去に発生した水害の経験に学び、水害常襲地域の課題の共有を狙いとしたフォーラムを開催します。(要申込。資料代 500 円)

問合せ: 特定非営利活動法人 リスクデザイン研究所

MAIL: antenna.kobe@gmail.com

FAX: 078-413-1140

HP: http://riskdesign.blogspot.jp/

## 特定非営利活動法人 姫路発 中高生のための東日本災害ボランティア 『第三回 東北の中高生による東日本大震災 からの教訓講演会、及び防災アトラクション』

東日本大震災で被災した中高生による講演会と、災害時の体感型脱出ゲームをメインとしたイベントを8/2(日)に開催。体感型脱出ゲームは、災害時の行動や準備すべきもの、コミュニティの大切さが効果的に学べる場になっていました。



## ゴンターズ高原スポーツ少年団 『「双葉町応援隊 絆」地域と共に』

京丹波町のスポーツ少年団に所属する子ども達が、自ら育て収穫したジャガイモを、友好町である双葉町へ届ける活動を実施。8/10(月)には、双葉町役場と南台仮設住宅にジャガイモを届け、出迎えてくれた方々と笑顔で交流していました。

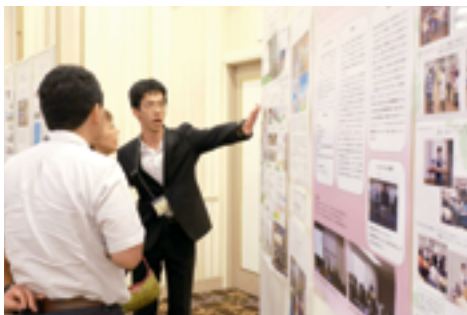


## 第5回公募助成活動発表会を開催

平成27年8月2日(日)、平成26年度中に活動いただいた団体の方々による活動発表会を、ホテルグランヴィア大阪にて開催しました。ステージ形式とポスター形式に分け、全41団体の方々にご活動成果の発表をしていただきました。



活動にかける思いをこめて発表



様々な活動に興味津々



活動で製作した発電キットを展示

## 平成28年度公募助成(活動・研究)のお知らせ

心身のケアなど事故や災害に起因する身近な「いのち」を支える活動・研究を応援します

**助成テーマ** 事故、災害や不測の事態に対する備えに関する活動・研究(災害被害低減、心肺蘇生法等)または、事故、災害や不測の事態が起こった後の心のケア(グリーフケア等)や身体的ケア(リハビリテーション等)等に関する活動・研究  
特別枠として、東日本大震災・平成23年の台風12号災害及び平成26年広島土砂災害に関する被災地・被災者支援を含む  
※直接的ではなくても、上記内容に寄与する活動・研究も含まれます。

**応募条件** **活動助成:** 近畿2府4県に拠点があり、1年以上の継続的活動実績のある(特別枠は実績不問)非営利の民間団体  
※法人格の有無は不問  
**研究助成:** 近畿2府4県の大学及び大学院、高等専門学校、公的研究機関、医療機関等に所属する研究者

**助成期間** 平成28年4月1日から平成29年3月31日までの1年間

**助成金** **活動助成:** 1件70万円以下 **研究助成:** 1件200万円以下

**募集期間** 平成27年10月1日(木)～11月17日(火)※必着(厳守)

**募集要項** 詳細はホームページ(<http://jrw-relief-f.or.jp/>)でご確認ください

- ポイント**
- 1 助成金は活動・研究前(平成28年3月下旬)にお渡しします
  - 2 活動・研究経費全額の助成も可能です
  - 3 助成活動・研究に必要なアルバイト代なども対象となります
  - 4 助成対象団体に法人格の有無は問いません



### 編集後記

平成28年度公募助成の募集が始まりました。公募助成先の募集も今回で7回目(東日本大震災活動助成も入ると10回目!)。これまでに起こった事故、災害から学び得たことから様々な創意工夫がされた、多くの活動・研究を応援させていただきました。環境や手法は違っても、「安全で安心できる社会」のために。高い志をもった団体・研究者の皆様からのご応募をお待ちしております。(編集者:川股)

〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目4番24号  
TEL: 06-6375-3202 FAX: 06-6375-3229  
E-mail: [info@jrw-relief-f.or.jp](mailto:info@jrw-relief-f.or.jp)  
URL: <http://jrw-relief-f.or.jp/>